

懸命に取り組んでいる企業も、これからの企業も 自社のIT人材育成を診断！ 人づくりをチェックしよう

変革のチャンスは人材育成から
～組織の活性化による経営変革の実践に向けて～

人材マネジメントセルフチェックを活用 すると自社の人材育成の診断ができます。

- 自社の人材育成プロセスを客観的に判断でき、見える化できます
- 進むべき将来と現状の差が分かります
- 人材育成の仕組みづくりのヒントが得られ、計画立案に役立ちます

項目	診断	レベル1(エントリーレベル)	レベル2(熟練レベル)
01-1	人材が持っている知識やスキルなど、能力のレベルを管理し、育てていく仕組みが整っていますか？また、それと社員の多くが習得する人材にまつ育成サイクルについて	社内に多く習得スキルや知識が蓄積されているが、社内に習得スキルや知識が蓄積されていない社員も少なくない。育成サイクルが整っていない。	社内に多く習得スキルや知識が蓄積されている。社内に習得スキルや知識が蓄積されていない社員も少なくない。育成サイクルが整っている。
01-2	有効な教育機会を提供しているか？	社内に有効な教育機会が提供されているが、社内に有効な教育機会が提供されていない社員も少なくない。	社内に有効な教育機会が提供されている。社内に有効な教育機会が提供されていない社員も少なくない。
01-3	社員の働き方を変えて何か(新しい仕事や学習のための機会)に挑戦できるような仕組みが整っていますか？また、それと社員の働き方を変えて何か(新しい仕事や学習のための機会)に挑戦できるような仕組みが整っていますか？	社内に社員の働き方を変えて何か(新しい仕事や学習のための機会)に挑戦できるような仕組みが整っているが、社内に社員の働き方を変えて何か(新しい仕事や学習のための機会)に挑戦できるような仕組みが整っていない社員も少なくない。	社内に社員の働き方を変えて何か(新しい仕事や学習のための機会)に挑戦できるような仕組みが整っている。社内に社員の働き方を変えて何か(新しい仕事や学習のための機会)に挑戦できるような仕組みが整っていない社員も少なくない。
02-1	マネジメント職の役割・使命について	社内にマネジメント職の役割・使命が明確に定義されているが、社内にマネジメント職の役割・使命が明確に定義されていない社員も少なくない。	社内にマネジメント職の役割・使命が明確に定義されている。社内にマネジメント職の役割・使命が明確に定義されていない社員も少なくない。
02-2	マネジメント職の育成・発育について	社内にマネジメント職の育成・発育が促進されているが、社内にマネジメント職の育成・発育が促進されていない社員も少なくない。	社内にマネジメント職の育成・発育が促進されている。社内にマネジメント職の育成・発育が促進されていない社員も少なくない。
02-3	マネジメント職のモチベーションについて	社内にマネジメント職のモチベーションが向上しているが、社内にマネジメント職のモチベーションが向上していない社員も少なくない。	社内にマネジメント職のモチベーションが向上している。社内にマネジメント職のモチベーションが向上していない社員も少なくない。
03-1	組織の目標設定や進捗管理が適切に行われているか？	社内に組織の目標設定や進捗管理が適切に行われているが、社内に組織の目標設定や進捗管理が適切に行われていない社員も少なくない。	社内に組織の目標設定や進捗管理が適切に行われている。社内に組織の目標設定や進捗管理が適切に行われていない社員も少なくない。
03-2	マネジメントに対する教育について	社内にマネジメントに対する教育が提供されているが、社内にマネジメントに対する教育が提供されていない社員も少なくない。	社内にマネジメントに対する教育が提供されている。社内にマネジメントに対する教育が提供されていない社員も少なくない。
03-3	経営と現場リーダーの対峙について	社内に経営と現場リーダーの対峙が促進されているが、社内に経営と現場リーダーの対峙が促進されていない社員も少なくない。	社内に経営と現場リーダーの対峙が促進されている。社内に経営と現場リーダーの対峙が促進されていない社員も少なくない。
04-1	組織・人材を育成するために、専門やプロジェクトの育成を促して、会社レベルで	社内に組織・人材を育成するために、専門やプロジェクトの育成を促して、会社レベルで	社内に組織・人材を育成するために、専門やプロジェクトの育成を促して、会社レベルで
04-2	組織と現場・人材の接合について	社内に組織と現場・人材の接合が促進されているが、社内に組織と現場・人材の接合が促進されていない社員も少なくない。	社内に組織と現場・人材の接合が促進されている。社内に組織と現場・人材の接合が促進されていない社員も少なくない。
04-3	組織・人材の変革に向けた実践について	社内に組織・人材の変革に向けた実践が促進されているが、社内に組織・人材の変革に向けた実践が促進されていない社員も少なくない。	社内に組織・人材の変革に向けた実践が促進されている。社内に組織・人材の変革に向けた実践が促進されていない社員も少なくない。

人材マネジメントセルフチェック

そして、簡単なWeb入力で「人材育成診断」に参加すると、

- フィードバックされるデータ集計結果と自社データとの比較により、自社のポジションが確認できます
- 他社の優秀な事例や、有益な情報に触れられます
- 人材育成分野の知見者の講演セミナー*に無料で参加できます



IPA Channel 最適事例セミナー2011

検索

*最適事例セミナー2011(2011年度の例)

さあ「人材育成診断」に参加しましょう！

⇒人材育成診断 <http://www.ipa.go.jp/jinzai/shindan/2012/>

「人材育成診断」には診断コースと表彰コースの2種類のコースがあります。診断コースはとても簡単に参加いただけます。データをWebに入力すれば参加完了です。(データのフィードバックは集計終了後になります)

表彰コースは「中小ITベンダー人材育成優秀賞」の応募になります。詳細は裏面をご覧ください。

なお、入力されたデータは、本目的にのみ利用し個別データは公表されません。企業名などの公表は、個別に了解を頂いた場合のみになります。

診断コースは、小さな企業も大きな企業も、人材育成の進んだ企業もこれからの企業も、手軽に参加できます。

中小ITベンダー人材育成優秀賞

「中小ITベンダー人材育成優秀賞」に応募すると、書類審査通過の企業は現地審査を受けることができます。現地審査では審査員(有識者)が企業を訪問し、経営者や人事責任者、職場リーダーの方々にヒアリングを行います。外部の有識者に自社の状態をアセスメントして意見をもらうことは、客観的な人材マネジメントの改善に大変有効です。受賞企業は知名度が向上し、人材採用や業務上のメリットも期待できます。応募資格、応募方法をご確認の上、ぜひご応募ください。



趣旨

中小ITベンダーにおいて、経営戦略に即したIT人材育成の取組みを、スキル標準*を活用して組織的に実践し、その取組みがIT業界の産業構造の変革に対応しており、企業組織全体が活性化されている企業を表彰します。

*ITSS(ITスキル標準)、UISS(情報システムユーザースキル標準)、ETSS(組込みスキル標準)のいずれかを指します。

表彰の内容

名称	選定数	対象
優秀大賞	1件	・優秀賞の中で、特に優れた取組みと認められる場合
優秀賞	3件以内	・優れたIT人材育成計画を実施しており、効果を上げていること ・その計画の裏づけとして独自の経営戦略を持っていること ・上記計画の実現の具体化に即したIT人材育成計画であることが第三者視点で確認できること ・他の中小企業等が企業変革を目指す際の参考となること 等
特別賞	若干数	・優秀賞には至らないものの優れた取組みと認められる場合 ・部分的であるが、特に優れた取組みと認められる場合

表彰コースの応募資格、応募方法など詳細は

<http://www.ipa.go.jp/jinzai/award/vendor2012/index.html> をご覧ください。

後援

一般社団法人情報サービス産業協会(JISA)
一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会(JUAS)
一般社団法人コンピュータソフトウェア協会(CSAJ)
一般社団法人日本コンピュータシステム販売店協会(JCSSA)
特定非営利活動法人スキル標準ユーザー協会(SSUG)

特定非営利活動法人ITスキル研究フォーラム(ISRF)
特定非営利活動法人ITコーディネータ協会(ITCA)
一般社団法人日本ソフトウェア産業協会(NSA)
一般社団法人全国地域情報産業団体連合会(ANIA)
一般社団法人組込みシステム技術協会(JASA)

お問い合わせ

「人材育成診断」事務局
「中小ITベンダー人材育成優秀賞2012」事務局

E-mail:shindan@ipa.go.jp
E-mail:hrd-award@ipa.go.jp
電話:03-5978-7544(直通)

IPA 独立行政法人 情報処理推進機構

2012年4月

〒113-6591 東京都文京区本駒込2-28-8 文京グリーンコートセンターオフィス15F ©2012.All Rights Reserved Copyright IPA
TEL.03-5978-7544 FAX.03-5978-7516 URL. <http://www.ipa.go.jp/jinzai/itss/>

本書の全部または一部複製・転載などを禁じます。



環境保護印刷製品
「水なし印刷」認証番号S33